

令和元年6月13日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16H03312

研究課題名(和文) 海のアジア再考 - 英領マラヤ・東アジアネットワークの歴史と現在 -

研究課題名(英文) Rethinking Asia from Maritime Perspectives: History and Continuity of British Malaya and East Asian Network

研究代表者

北村 由美 (Kitamura, Yumi)

京都大学・附属図書館・准教授

研究者番号：70335214

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、東南アジアと東アジアにおいて英領マラヤ(現マレーシア・シンガポール)を起点として植民地期に形成された様々なネットワークが、現代にどのような形で継承され、機能しているかを学際的な研究チームによって検討した。具体的には、英領マラヤを起点として、中国、台湾、日本、インドネシア、タイ、ベトナム、ミャンマーなど東アジア・東南アジアの国々との関係性を、流通ネットワーク、文化ネットワーク、移動ネットワークの歴史と現在をフィールドワークと文献調査を通して検討し、現代の国境にしばられないアジアの見方の一例を示すことができた。研究成果は、国際シンポジウムや国内学会にて発表を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、東南アジアと東アジアにおいて英領マラヤ(現マレーシア・シンガポール)を起点として植民地期に形成された様々なネットワークが、現代にどのような形で継承され、機能しているかを、検討した。特に、流通、文化の伝播、人々の移動を中心に、それぞれのネットワークの歴史と現在をさまざまな分野の研究者が集まって検討したことで、現代の国境にしばられないアジアの見方の一例を示すことができた。

研究成果の概要(英文)：In this research we focus on various networks underlying social structure and cultural dynamism in contemporary East Asia and Southeast Asia by conducting multidisciplinary research by the group of researchers with various disciplines such as area studies, cultural anthropology, and historical studies. By examining colonial networks developed in British Malaya and its implications in the modern East and Southeast Asia through fieldwork and the examination of literature, we uncovered different layers of networks inherited from the colonial period to the present in terms of patterns of commerce, migration, and even cultural dissemination. Through this collaborative research we were able to present new perspectives to understand contemporary Asia beyond the boundaries of nation states. Some of our findings were presented at international symposium and conferences in Japan.

研究分野：東南アジア研究

キーワード：経済史 華人史 客家ネットワーク 宗教ネットワーク 海域アジア

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

- (1) 代表者は、これまでインドネシアを中心に東南アジアの華人の文化と社会に関する調査を行ってきた。調査の過程で、植民地期より形成されてきた華人ネットワークが形を変えつつも、現代のアジア域内における流通、文化の伝播、人の移動に大きな影響を与えていることを認識し、学術的に検証する必要性を強く感じたことから、本研究の構想に至った。
- (2) 本研究では、華人研究に軸足を置きながらも、現代東アジア・東南アジアにおける社会構造や文化ダイナミズムの根底にある様々なネットワークに注目し、地域研究・文化人類学・歴史学などの学際的研究によって、現代社会への影響力とその範囲を明らかにすることを目的とした。具体的には、英領マラヤを起点として、中国、台湾、日本、インドネシア、タイ、ベトナム、ミャンマーなど東アジア・東南アジアの国々との関係性を検証することとした。換言すると、本研究の目的は、歴史的な地域概念である英領マラヤの現代的意義を再考することであった。
- (3) 研究開始当初、本研究のように植民地期に形成されたネットワークの現代的意義を、総合的にかつ広域的に現地調査を踏まえて明らかにする試みは、ほとんど例がなかった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、海域を中心としたアジアにおけるネットワークの歴史と連続性を包括的に検討することによって、以下の3点を明らかにすることである。

- (1) 現代の東アジア・東南アジアへ継承されている旧英領マラヤ・ネットワークの把握
- (2) 現代アジアにおける国際関係の相対化
- (3) 日本を含めた東アジア・東南アジアにおける今後のネットワーク形成の検討

3. 研究の方法

本研究では、以下の3課題ごとに歴史と現在を反映した2つの研究テーマを設定した。それぞれのテーマについて、研究組織メンバーが、フィールドワークと文献調査を行い、研究会を通じて検討を行った。

課題1 流通ネットワーク

- テーマ1 (歴史): 旧英領マラヤ (シンガポール・マレーシア) 旧蘭領東インド (インドネシア) 東アジアをつなぐ流通ネットワークの歴史の検証
- テーマ2 (現在): グローバル化時代における企業展開と流通ネットワークの検証

課題2 文化ネットワーク

- テーマ3 (歴史): 廟や寺院などの伝統的な宗教組織を通じたネットワーク形成と各地の文化における伝播過程の検証
- テーマ4 (現在): 第二次世界大戦後に東南アジアの国々が独立した後の多民族国家における特定の文化・宗教とそれらをめぐる言説の伝播の検証

課題3 移動ネットワーク

- テーマ5 (歴史): 植民地期における人の移動とその管理をめぐる制度の検証
- テーマ6 (現在): グローバル化時代における進学や結婚を契機とする人の移動や、国際労働移動によるネットワークの形成と新たな展開の検証

4. 研究成果

以下に、本研究の過程で明らかになったいくつかの発見のうち、英領マラヤや蘭領東インドの流通ネットワークや文化ネットワークが、時代を超えてどのように広がり、機能していったかを具体的に検証した例を以下に挙げる。これらは、研究目的(1)を満たす事例であり、また、中国とその他の地域という見方をされがちな現代アジアの国際関係を相対化している点において、研究目的(2)を満たす事例も含まれている。ただし、研究分野が多岐にわたるため、研究目的(3)のように個別事例を超えた大きな枠組みを提示するためには、さらなる検討が必要である。

- (1) 特に流通ネットワークと移動ネットワークに関連して、東南アジアの客家系移民に関する研究をすすめた。客家は、これまで、植民地期の東南アジアにおいて炭鉱労働者として移民した人々とその子孫が主な対象であったが、本研究では、都市部の客家ビジネスエリートらに注目し、インドネシア、香港、日本を結び共同研究を行い、19世紀末から20世紀中葉にかけて梅県出身の客家系商人が、香港をハブとしながら、インドネシア・マレーシアと日本の双方でビジネスを展開していった過程が明らかになった。本成果に関しては、日本華僑華人学会2018年度大会において、パネル発表を行った。また、2019年2月にマラヤ大学中国研究所において本研究の成果の一部を共有した。このような地縁や血縁を中心とするネットワークが、グローバル化時代におけるビジネスネットワークへどのように展開していったかについては、今後の検討課題である。
- (2) 同じく流通ネットワークに関連して、アンダマン海域と南シナ海域の双方における、ツバメの巣やナマコといった最終的には華人によって消費される高級食材の流通をめぐる、経済史に加えて、採集の担い手である海民や森の民など、必ずしも国民国家の管理の枠組みにおさまりきらない生活をしている人々を対象とした人類学の双方からの知見の共有ができた。

- (3)文化ネットワークに関連して、土地神という華人伝統宗教の国家を越えた分布状況や、1970年以降に東南アジアで広がったカトリックのカリスマ運動の展開について、民族間関係や政治状況なども踏まえた分析が行われた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 28 件)

- (1) 長田紀之、近代ミャンマー(ビルマ)の都市、歴史と地理-世界史の研究-、査読無、258、2019、65-68.
- (2) 工藤裕子、スマランの華人運動 - 20 世紀初頭の新組織と指導者層の分析から、史苑、査読無、79(1)、2019、53-76.
- (3) 太田淳、19 世紀半ばにおけるインドネシア・北スラウェシの社会変容-コーヒー生産の展開と貨幣経済の深化-、三田学会雑誌、査読無、111(1)、2018、17-50.
- (4) Ota, Atsushi. Role of State and Non-State Networks in Early-Modern Southeast Asian Trade. *Paths to the Emerging State in Asia and Africa* (Singapore: Springer Singapore). 査読無、1,2018,73-93.
- (5) 長田紀之、2017 年のミャンマー：過去最大の難民危機、アジア動向年報 2018、査読無、1、2018、433-456.
- (6) 長田紀之、日本の東南アジア史研究(2006-17) - 重層する地域、近代性批判、歴史語り -、東南アジア-歴史と文化-、査読有、47、2018、50-67.
- (7) 長田紀之、近代植民地都市について-東南アジア研究の立場から-、都市史研究、査読無、5、2018、47-54.
- (8) 長田紀之、ビルマの首都ランゲーンの脱植民地化過程に関する覚書-人口変化と華人街における土地利用の変化を中心に-、東京経大会誌 - 経済学 -、査読無、297、2018、83-106.
- (9) Kitamura, Yumi. The Re-recognition of Confucianism in Indonesia: An Example of China's Soft Footprint in Southeast Asia. *China's Footprints in Southeast Asia* (Singapore: NUS Press). 査読有、1,2018,172-193.
- (10) Kitamura, Yumi. Finding Passages with Cultural Capital: New Dimension of Mobilities in East and Southeast Asia. *Issues & Studies: A Social Science Quarterly on China, Taiwan, and East Asian Affairs*. 査読無、54(1)、2018,1802001-1-4.
- (11) Kudo, Yuko. Dutch Bank Transaction with Chinese Traders in the Dutch East Indies, The Java Sugar Trade and the 1917 Sugar Crisis. *Modern Global Trade and the Asian Regional Economy* (Singapore: Springer Singapore). 査読無、1,2018,3-31.
- (12) 芹澤知広、ヌン族の華人の祀る神 - 中国・ベトナム・オーストラリアの実地調査から -、アジア・アフリカ地域研究、査読有、17(2)、2018、227-257.
- (13) Serizawa, Satohiro (Tran Hong Lien 訳). Nhat Ky Dien Da Ve Cac Co So Tin Nguon- Ton Giao Huyen Chau Thanh, Tinh Tra Vinh [チャビン省 チャウタン県の各信仰宗教施設についての実地調査]. *Nam Bo: Dat va Nguoi* [南部：土地と人]. 査読有、13,2018,592-612.
- (14) 陳來幸、客家商人与近代日本華僑社会、会館、社群与網絡 客家文化學術論集、査読無、客家文化研究叢書 5、2018、189-206.
- (15) Kitamura, Yumi. Long way home " The life history of Chinese-Indonesian migrants in the Netherlands " . *Wacana: Journal of the Humanities of Indonesia*. 査読有、18(1)、2017,24-37.
- (16) 佐久間香子、サラワク人類学の系譜と今日的課題、マレーシア研究、査読有、6、2017、21-42.
- (17) 芹澤知広、日本酒は香港に根づくのか、vesta(食文化誌ヴェスタ)、査読無、106、2017、34-36.
- (18) 芹澤知広、ベトナム国チャビン省チャウタン県の関帝廟の盂蘭盆に見る華人の文化変容、華僑華人研究、査読有、13、2016、51-60.
- (19) 片岡樹、架空の識字力 - 現代タイ国における漢文經典の知識をめぐって -、華僑華人研究、査読有、13、2016、7-26.
- (20) 横田祥子、インドネシア華人女性の国際結婚を通じた世界保持：西カリマンタン州シンカワン市の事例から、華僑華人研究、査読有、13、2016、27-44.

〔学会発表〕(計 52 件)

- (1) Kataoka, Tatsuki. Toa Peh Kong and Pun Thao Kong: Variations of Chinese Guardian Spirits of Locality in Southeast Asia. *Seminar at the Penang Institute, Malaysia*. 2019.
- (2) Shinozaki, Kaori. Political Participation in Multiple Homelands: The Chinese Business Community in Penang and Straits Settlements. *Seminar at the Penang Institute, Malaysia*. 2019.
- (3) 太田淳、19 世紀半ばの蘭印・北スラウェシにおける商業作物生産、社会経済史学会第 87 回全国大会、2018 年.
- (4) Ota, Atsushi. Continuing Trade, Changing States: Reconsideration of the Transitions

in Maritime Southeast Asia, 1750-1870. *Global History and Hybrid Political Economy in Early Modern Eurasia, c. 1550-1850*, The University of Tokyo.2018.

- (5) 長田紀之、ミャンマー都市の近代経験 ヤンゴンを中心に、国際開発学会 ラウンドテーブル「躍動するミャンマーの都市計画と国際協力の可能性」(招待講演)、2018年。
- (6) 長田紀之、都市フロンティアと国家-植民地期ラングーン移民統制-、東南アジア学会第99回研究大会 東南アジア史学会賞受賞記念講演(招待講演)、2018年。
- (7) 工藤裕子、バタヴィアの客家系商人-植民地期の新リーダーとアジア域内の活動-分科会「東南アジア・東アジア間の華僑華人ネットワーク再考:客家系商人家族の事例研究から」、日本華僑華人学会 2018年年度大会、2018年。
- (8) 佐久間香子、香港在住の東南アジア華人社会におけるモノの贈与交換、日本文化人類学会第52回研究大会、2018年。
- (9) Sakuma, Kyoko. Alchemy of Edible bird's nests: A forest product that connects interior Borneo and China. *2nd International Conference on Food and Culture*.2018.
- (10) Serizawa, Satohiro. The Chinese Descendants in the Rural Mekong Delta: The Cases in Tra Vinh Province, Vietnam. *International Conference of Chinese Diaspora and the Contemporary Rise of China: Migration, Settlement and Transnational Networks (ISSCO 2018)*. 2018.
- (11) 芹澤知広、ヌン族の華人の宗教施設に見るベトナムとオーストラリアの関係、国際シンポジウム「客家エスニシティとグローバル現象 華僑華人の拡がりと現在」(国立民族学博物館).2018年。
- (12) 芹澤知広、香港の蕉嶺同郷会に貢献した東南アジアの客家系商人 - ジャカルタの呉嵩喜に焦点をあてて -、日本華僑華人学会 2018年度研究大会、2018年。
- (13) 陳來幸、神戸の開港と雑居地の形成およびその多文化共生性、国際フォーラム「19-20世紀アジア港湾都市の勃興」(招待講演)、2018年。
- (14) 陳來幸、20世紀初頭~1950年代:日本の華僑社会に足跡を残した客家商人 - 梅県南口鎮僑郷村の潘家を中心に、日本華僑華人学会 2018年年度大会、2018年。
- (15) Yokota, Sachiko. Changing Cross-border Marriage Migration of Indonesian Women: A Case Study of Singkawang, West Kalimantan, Indonesia. *International Workshop on Marriage Migrants in Asia: Mobility and Agency, Taiwan*.2018.
- (16) Kataoka, Tatsuki. Literacy as Charisma: 'The Lost Book' and Prayer of the Lahu in Thailand and Burma. *SEASIA 2017 Conference*.2017.
- (17) Kitamura, Yumi. Chinese Indonesians in the Catholic Charismatic Renewal Movement. *International Workshop on Making Global Trajectories of Chinese Diaspora Studies in Asia*.2017.
- (18) Kitamura, Yumi. Re-recognition of Confucianism as a State Religion of Indonesia and Its Implications in Asian Context. *The World Confucian Religion Congress (招待講演)*.2017.
- (19) 工藤裕子、オランダ領東インドへの日本製品輸出と華人流通網 - 20世紀初頭のジャワ市場におけるマッチを中心に -、東南アジア学会第98回研究大会、2017年。
- (20) 芹澤知広、中国欽州からベトナム、さらにはオーストラリアへの護国観音廟の移動、東南アジア学会関西例会、2017年。
- (21) 篠崎香織、Chinese in Penang in the Electoral Process of Senate of National Assembly, Republic of China, 1913、世界海外華人研究学会、2017年。
- (22) Chen Lai Xing. The Role of Hakka Merchants in Asia: Focusing on the Family Network between Kobe, Batavia, Hongkong and Mei-xian in Early Twentieth Century. *International Workshop on Making Global Trajectories of Chinese Diaspora Studies in Asia*.2017.
- (23) Yokota, Sachiko. Global Householding through Cross-border Marriage Migration of Indonesian Chinese Women: A Case Study of Singkawang, West Kalimantan, Indonesia. *International Workshop on Making Global Trajectories of Chinese Diaspora Studies in Asia*.2017.
- (24) Kataoka, Tatsuki. Straits Chinese outside the Straits: Baba-ness Reflected in Epigraphs of the Baba Cemeteries in Thailand. *the 9th International Conference of the International Society for the Study of Chinese Overseas*.2016.
- (25) 片岡樹、タイにおける漢文経典朗読、東南アジア学会第95回研究大会、2016年。
- (26) 篠崎香織、客家企業家對馬來亞華人商會發展的貢獻:再談張弼士、第四屆臺灣客家研究國際研討會、2016年。
- (27) 芹澤知広、一九五零年代之前越南南部華人宗教和中国本土關係:基督宗教和佛教爲中心、跨國危機的對應:1850-1950 東亞港口城市華人的社會經濟生活、2016年。
- (28) 陳來幸、日本統治期台湾人家族の日本における発展とその商業ネットワーク:神戸泰安公司陳通ファミリーを中心に、日本帝国與殖民地:人流與跨境(二)(招待講演)、2016。
- (29) 陳來幸、近代日本華僑史中客家商人與客家精英的定位:梅縣 - 香港 - 日本 - 巴達維亞、第四屆台灣客家研究國際シンポジウム「族群、地方與区域:全球客家知識体系的建構與實踐」

(招待講演)、2016年。

〔図書〕(計55件)

- (1) 太田淳、慶應義塾大学出版会、「バタヴィアーハイブリッド・シティの発展と変容」古田和子編『都市から学ぶアジア経済史』、2019、456。
- (2) 太田淳(分担執筆)、山川出版社、「東南アジアの海賊と「華人の世紀」」島田竜登編『歴史の転換期8:1789年 自由を求める時代』、2018、272。
- (3) 長田紀之(執筆分担)、放送大学教育振興会、「第5章 植民地支配の進展」、第6章 東南アジア経済の再編成」古田元夫(編著)『東南アジアの歴史』、2018、236。
- (4) 片岡樹(執筆分担)、ミネルヴァ書房、「宗教と世界観」桑山敬己、綾部真雄編『詳論文化人類学 基本と最新のトピックを深く学ぶ』、2018、381。
- (5) 片岡樹(執筆分担)、風響社、「功德がとりもつ潮州善堂とタイ仏教 泰国義徳善堂の事例を中心に」志賀市子編『潮州人 華人移民のエスニシティと文化をめぐる歴史人類学』、2018、420。
- (6) 片岡樹(編著)、有斐閣、『はじめての東南アジア政治』、2018、324。
- (7) 芹澤知広(執筆分担)、風響社、「ベトナムの潮州人宗教結社 - ホーチミン市とメコンデルタ」志賀市子編『潮州人 - 華人移民のエスニシティと文化をめぐる歴史人類学』、2018、424。
- (8) 横田祥子(執筆分担)、東方書店、「解説 台湾の結婚移民現象に関する夏曉鶯のポジション」夏曉鶯著、前野清太郎訳『「外国人嫁」の台湾: グローバリゼーションに向き合う男と女』、2018年、391。
- (9) 片岡樹(執筆分担)、慶應義塾大学出版会、「信仰の軸線 - 東南アジアにおいて「宗教を信じる」とは何を意味するか」『東南アジア地域研究入門 2 社会』、2017、336。
- (10) 片岡樹(執筆分担)、京都大学附属図書館、「「もうひとつの海峡世界」から見るインドネシア華人の移住」『20世紀アジアの国際関係とインドネシア華人の移動』、2017、315。
- (11) Kataoka, Tatsuki (執筆分担). *NIAS Press*. Millenarianism, ethnicity and the state: Khruba Bunchum worship among the Lahu in Myanmar and Thailand” *Charismatic Monks of Lanna Buddhism*. 2017. 266.
- (12) 加藤剛(執筆分担)、昭和堂、「グローバル支援の歴史的位置づけ」『グローバル支援の人類学 変貌するNGO・市民活動の現場から』、2017、365。
- (13) 北村由美(編著)、京都大学附属図書館、「20世紀アジアの国際関係とインドネシア華人の移動」、2017、315。
- (14) 篠崎香織、九州大学出版会、『プラナカンの誕生: 海峡植民地ペナンの華人と政治参加』、2017、514。
- (15) 篠崎香織(執筆分担)、国立交通大学、「Contribution of the Hakka Entrepreneur Chang Pi Shi to the Development of the Singapore Chinese Chamber of Commerce: Revisiting the Origins of the Chamber of Commerce」張維安編『在地、南向與全球客家』、2017、568。
- (16) 芹澤知広(執筆分担)、昭和堂、「移民 - 香港の人の動きから考える - 」上水流久彦・太田心平・尾崎孝宏・川口幸大編『東アジアで学ぶ文化人類学』、2017、254。
- (17) 陳來幸(執筆分担)、国立交通大学出版会、「19世紀末到二戦前後為主東亞華僑史中客家商人與客家精英的地位: 梅縣 - 香港 - 神戸 - 巴達維亞」張維安 編『在地、南向與全球客家』、2017、565。
- (18) 長田紀之、山川出版社、『胎動する国境 英領ビルマの移民問題と都市統治』(山川歴史モノグラフ31)、2016、264。陳來幸(執筆分担)、勉誠出版、「在日台湾人と戦後日本における華僑社会の左傾化現象」『交錯する台湾認識 見え隠れする「国家」と「人びと」』、2016、288。
- (19) 陳來幸(執筆分担)、京都大学人文科学研究所、「20世紀初頭における客家系華商の台頭: 神戸と香港に進出した梅県南口鎮の潘氏一族」、2016、471。

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

「海のアジア再考英領マラヤ・東アジアネットワークの歴史と現在」(科学研究費基盤研究B)

<http://project-archives.org/2016maritime/>

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名: 片岡 樹

ローマ字氏名: KATAOKA, Tatsuki

所属研究機関名: 京都大学

部局名：アジア・アフリカ地域研究研究科
職名：教授
研究者番号(8桁)：10513517

研究分担者氏名：加藤 剛
ローマ字氏名：KATO, Tsuyoshi
所属研究機関名：東洋大学
部局名：アジア文化研究所
職名：客員研究員
研究者番号(8桁)：60127066

研究分担者氏名：篠崎 香織
ローマ字氏名：SHINOZAKI, Kaori
所属研究機関名：北九州市立大学
部局名：外国語学部
職名：教授
研究者番号(8桁)：90573486

研究分担者氏名：佐久間 香子
ローマ字氏名：SAKUMA, Kyoko
所属研究機関名：立命館大学
部局名：衣笠総合研究機構
職名：研究員
研究者番号(8桁)：50759321

研究分担者氏名：芹澤 知広
ローマ字氏名：SERIZAWA, Satohiro
所属研究機関名：奈良大学
部局名：社会学部
職名：教授
研究者番号(8桁)：60299162

研究分担者氏名：陳 来幸
ローマ字氏名：CHEN, Lai Xing
所属研究機関名：兵庫県立大学
部局名：経済学部
職名：教授
研究者番号(8桁)：00227357

研究分担者氏名：横田 祥子
ローマ字氏名：YOKOTA, Sachiko
所属研究機関名：滋賀県立大学
部局名：人間文化学部
職名：助教
研究者番号(8桁)：80709535

(2)研究協力者

研究協力者氏名：太田 淳
ローマ字氏名：OTA, Atsushi

研究協力者氏名：長田 紀之
ローマ字氏名：OSADA, Noriyuki

研究協力者氏名：工藤 裕子
ローマ字氏名：KUDO, Yuko

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。